

## やじま橋ばし

南中曾根と岩槻市大字小溝こみぞとの境を流れる古隅田川に架けられた石橋を「やじま橋」という。石橋では埼玉県内で一番古い橋とされている。

この場所は旧鎌倉街道筋であり、明治二十一年十月下旬に開通した岩槻新道（旧十六号）のできるまでは、この道が唯一の道路であった。俗に岩槻古道とも呼ばれ、この橋も数年前まで利用されていたが、宅地開発が進みこの橋の際に新しい橋が架けられて、いまは利用されなくなった。

「やじま橋」は、二百四十一年前の元文二年（一七三七年）時の岩槻城主、永井伊賀守直陳なおのぶの命により道順川戸村の名主、矢島氏（現八嶋氏）が新方庄・上蛭田村・徳力村等沿道の者から浄財と労力を集めて架けられたものである。

この位置は太田庄と新方庄の境界にあり、貴重な奥州街道の道筋であった。

橋の構築にあたっては地盤が軟弱のため難工事で、橋脚の沈下を防ぐため水中にある最下部には栗材や松材の丸太を幾重にも井形に組み、人柱を立てて基盤をつくった。その上に何百貫という石柱（橋脚）と梁を組み立て、長方形の石（タテ一・八はち、ヨコ〇・四よ、厚さ〇・〇六ろく）を十八枚使用し架けられたものである。その中の一枚の裏側につきのような文字が刻まれている。

元文二巳歳 永井氏のため志

## 鶴のハシタテ 亀のカウラン

この文は、永井氏の志により架けられたものであり橋脚を鶴の足にたとえ、橋板を亀の甲羅に見立てて鶴亀となし、幾久しく後世に残れと願って刻まれたものと思われる。

この橋の材料は全部花崗岩である。いつの頃か不明であるが板橋石の一枚がはずれて川中に落下したままになっており、その部分だけがコンクリート板で補修されている。

この街道が利用されていたところは岩槻藩の重要な位置であったので、橋の際には太田庄(後の百間領)の番所や晒場なほしほが置かれ、また通行人相手の家があったが、岩槻新道の開通により人家も移転して田圃の中に忘れ去られてしまった。「やじま橋」を渡って通じる道には、いまも辻つじに道しるべや石塔が立っている。

最近、古隅田川土地改良区で河川改修工事の計画がたてられ、この橋の撤去が話題になっている。

初出「広報かすかべ 昭和五十三年六月」かすかべの歴史余話